

所長挨拶

第六代所長 坂東 眞理子

女性文化研究所は今年度記念すべき20周年を迎えた。

昭和女子大学創立65年を記念して人見楠郎前理事長の壮志をうけて設立され、歴代所長のリーダーシップのもと実績を重ねてきた、この栄誉ある研究所の所長を私が拝命したのは2004年4月だった。伊藤前所長のころは大学院生の方が多数おられたが、私になってからは専任の所員はいない中で研究会、紀要編集などすべてを一手に引き受けてのスタートだった。

その後研究所員と同窓会有志により、光葉女性文化研究グループを組織して2002年から着手されていた卒業生調査を元に35名の方にインタビュー調査をした。アポイント取り、実際のインタビューからテープ越しを経ての長いやり取りのプロセスを経て、『女性文化研究所設立20周年記念 女性文化研究叢書第五集 輝く女性たち—光葉の三五名』として20周年記念事業にあわせて刊行できたのはたいへんうれしいことだった。特に光葉同窓会の安西美津子会長はじめ会員の方たちに作成の過程でも、完成後の買い上げ、配布についても多大な協力をいただき、名実ともに力をあわせてこのプロジェクトを行ったと実感している。

また、読売新聞社が大学と提携して行う「女性アカデミア 21」を2004年に開催することとなり、「二十一世紀人生パワー戦略—仕事と家庭と自己実現」として玄田有史東大助教授と森ます美本学教授に出演していただいた。急に開催が決定し、女性教養講座に組み込んでもらうなど学生の確保に苦労したが、討論内容を読売新聞の紙面で大きく取り上げていただいたので大学にとって広報効果はあったのではないかと思う。その後、2005年は「母と娘—葛藤・自立・継承」、2006年は「女性は地域で輝けるか?—〈人手〉から〈人材〉への道」と3年間にわたって開催でき、参加者も年々増加し、毎年紙面でも大きく取り上げていただいた。

更に毎年4～6回行われてきた研究会が2005年10月には100回となり、創設のときから研究所の活動に携わってこられた掛川典子教授に「女性たちのユートピア」と題して報告していただいた。

こうした活動に対して2006年5月の創立記念日に理事長から、グループ表彰を受けることができた。これも創設来歴代の所長、関係者のご尽力の賜物であり、表彰はそのすべての人に与えられたとの思いで6月にささやかな受賞記念の懇談会を開催して、白石初代副所長をはじめ多数の方々に出席していただいた。

今後とも芸術・文化を尊重し、生命の尊厳、平和の建設を目指す女性文化の担い手として着実な歩みを重ねてまいりたいと願っているが、皆様のさらなるご支援とご協力をいただきたい。

(ばんどう まりこ 学校法人昭和女子大学理事 昭和女子大学副学長 大学院生活機構研究科教授)